

## 雑司が谷を知る・学ぶ・体験する

落谷 雄輝

2016年度「池袋学」夏季特別講座「雑司が谷で『つながる』・『つなぐ』—ESDをキーワードとする地域づくりと人づくりへ—」の第2部では、シンポジウム「雑司が谷を中心とした地域づくり—大人と子どもと—」が行われました（第1部については『「池袋学」講演録二〇一六年度』に掲載されています）。

はじめに、雑司が谷未来遺産推進協議会長の渡邊隆男氏、「としま案内人 雑司ヶ谷」代表の小池陸子氏、豊島区南池袋小学校校長の中村雅子先生、日本女子大学家政学部住居学科の薬袋奈美子准教授から、地域づくりに関する事例報告をしていただきました。その後、報告者4名に豊島区教育長の三田一則氏ととしまユネスコ協会代表理事の平井憲太郎氏を加え、パネルディスカッションを行いました。

渡邊氏には、雑司が谷七福神を作った経緯についてお話しいただきました。東京メトロ副都心線の開通に伴って池袋駅の利用客が減り、周辺の商店街が経済的な打撃を被るのではないかという懸念から「雑司が谷七福神の会」が結成されました。2010年に雑司が谷七福神が完成し、2011年の初詣から七福神巡りがスタート。参拝客が年々増え、今では地域の活性化に大きく貢献しています。

小池氏には「としま案内人雑司ヶ谷」についてお話しいただきました。雑司が谷案内処を運営しながら、ボランティアガイドが雑司が谷の魅力を発信し、豊島区内の小学校の社会科見学等もサポートしています。雑司が谷には、七福神巡りや鬼子母神の御会式など地域全体で楽しめるイベントだけでなく、国や都、区の指定文化財も多くあります。そうした雑司が谷の歴史や文化を案内し、未来につなげていきたいという思いがうかがえました。

続いて、中村先生には、南池袋小学校の児童と地域の関わりについてご報告いただきました。「文化は、水や空気と同じように子どもたちの心を育む上で欠かせないもの」という中村先生の考えのもと、南池袋小学校では、雑司が谷の伝統文化や自然環境を人づくりの基盤とした教育活動が行われています。当日は、実際に南池袋小学校の子どもたちが、力強い子供纏（まとい）を振ってくれました。これからの地域づくりを担う子どもたちの頼もしさを強く感じました。

最後は、日本女子大学の薬袋先生のゼミの試みについての報告でした。ご自身も日本女子大学出身である薬袋先生は、学生の視点で雑司が谷の魅力を紹介するパンフレット制作などを通して、積極的に雑司が谷の人々と交流する教育・研究活動を続けています。なかでも、薬袋先生は住宅建築の観点から地域を活性化することを提案しています。住居の造

りを工夫するなどささいな努力を積み重ねることで、地域住民の人間関係という雑司が谷の宝が持続可能になっていく可能性が示唆されました。

四つの事例報告を受けたパネルディスカッションは、ESD 研究所所長の阿部治先生の司会で進められ、人と人、そして世代をつなぐという視点から、雑司が谷の持つ可能性について議論が行われました。議論の中で、雑司が谷と触れ合うさまざまな機会を与えることで、子どもたちの関心や意欲を引きだし、さらなる学習につなげていけるのではないかという意見が挙がりました。

また、雑司が谷には地域資源が多くあるにもかかわらず、それが可視化されていないことが指摘されました。この課題の解決に向けて、子どもたちが町に出て地域の人に話を聞き自発的に地域について調べる「豊島ふるさと学習プログラム」を充実させていくこと、雑司が谷の資源や伝統を他の地域にも広めて普遍化させていくことが、今後の展望として浮上しました。

第3部では、三つの企画が行われました。一つ目は「すすきみみずく制作ワークショップ」です。雑司が谷すすきみみずく保存会の方々の指導のもと、江戸時代から雑司が谷に伝承されてきた郷土玩具「すすきみみずく」の制作体験が行われました。

二つ目は、NPO 法人「としまの記憶」をつなぐ会の協力で、『『くらしの記憶』から探る雑司が谷』と題した上映会とトークイベントが行われました。大正や昭和初期の雑司が谷や池袋周辺地区での日常生活や、戦災体験などに関するインタビュー、年中行事の様子を収めた計10本の映像を上映し、語り手による解説がありました。

三つ目は、地域活動に関するポスター展示で、立教大学経済学部の大山利男准教授のゼミ、日本女子大学の葉袋准教授のゼミ、そして南池袋小学校の子どもたちの取り組みが紹介されました。農業経済学を専門とする大山ゼミでは、豊島区由来の伝統野菜である雑司ヶ谷ナスを実際に栽培し、その栽培過程などを解説しました。葉袋ゼミは、学生有志が中心となって作成した冊子『わいわいぞうしがや』や『ぞうしがやガヤたんけん』が紹介され、これまで取り組んできた研究内容もまとめられていました。南池袋小学校は、すすきみみずくの制作講習を受ける児童の写真や、児童から送られた雑司が谷すすきみみずく保存会の方へのお礼状などが展示されました。

さまざまな視点から、雑司が谷での地域活動をご紹介いただく中で、雑司が谷には歴史的、文化的に価値の高いものが多くあることに気付かされました。そして、自然もまた地域の宝であると感じました。とくに第3部「すすきみみずく制作ワークショップ」では、具体的な地域づくりの取り組みを体験することができる貴重な機会でした。講演だけでなく、来場者が参加できるプログラムもあり、午前中から夕方まで大変充実した講座でした。

(ふきや・ゆうき 立教大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程)

※初出：<http://www.rikkyo.ac.jp/closeup/report/>